

「CHOLELITHIASIS Causes and Treatment」

九州大学名誉教授・外科学第1 中山 文夫 著

千葉大学名誉教授・第1内科

奥 田 邦 雄

このたび私の畏友、九州大学名誉教授中山文夫君が医学書院から「CHOLELITHIASIS—Causes and Treatment」を上梓された。本書はすばらしい名著であるの一言に尽きる。

最初の頁に、Aschoff 教授が1909年に描いたコレステロール結石の断面の絵が示されているが、驚くほど正確に克明に描写されている。序文に、中山教授が九州大学第1外科に入局して、三宅博教授から胆石をやらないかと言われ即座にそのように決心したこと、胆石の材料となる胆汁の理解のため有機化学を勉強され、外科医としてユニークな地位を打ち立てられた経緯が述べられている。中山教授は学問はもとより、語学に非常にたけておられ、この本の英語は日本人が書いたとは思えない高級なものである。

内容は胆石の分類から始まり、胆石症の病理、世界の胆石の組成の地理病理学的な相違などが詳しく述べられている。疫学の章の中に、中山教授の前2代続いた三宅教授のお写真が載せられてある。筆者は、中山教授の主宰したある国際会議の機会に2代目の三宅博教授にお目にかかる幸運に恵まれたことを思い出す。

次の章は胆石の形成機序に関する詳しい解説で、コレステロール結石の生化学的基礎、すなわち胆汁の組成、その変化、胆汁酸の役割、核形成の機序、胆嚢の機能と胆石形成のかかわりあい、病因因子に関する諸情報とその解析、色素結石の形成機序、動物における胆石の形成、胆石の実験的研究、胆石症の臨床、診断法、ウルソなどを含めた治療法、そして最後の章で肝内胆石症を詳しく述べておられる。三宅教授のころ、日本では肝内結石が非常に多かったが、最近著明に減ってきたことは、筆者自身経験し興味を持ってきた点であり、その経時の変化も詳しく述べられている。

この本の特筆すべき特徴の1つは、正確で詳しい文献である。1,500に近い文献がアルファベット順に、著者を略さないで示されているということは、それだけの文献を本文中に引用しているということであり、個々のstatementが責任をもって、すなわち文献に基づいてなされているということである。現在の日本の医学書の過半は内容の個々のstatementに責任のない書きおろしに近いものである。その違いは学問をまじめにやった学者とそうでない

本書き屋の違いであり、後者は中山教授を見習ってほしいものである。

私ごとになるが、中山文夫君が九州大学第1外科教授に選ばれたとき、筆者は久留米大学におり、周囲の話題になったことを覚えている。九州大学は臨床の教授に生化学者、すなわち学問をやる方を選んだということに筆者は非常な共感を覚え、そのアカデミーを賞讃したことがこの間のような気がする。中山教授は世界の胆石研究のメッカをメッカとして更に維持推進され、その成果がこの本の形となって残されたのである。正確でわかりやすく、最もupdateな内容を誇る本である。諸説粉々の胆石生成機序を含めて、極めて理解しやすくかつ簡明に解説されている。一般の消化器病を専攻する医師を始め、胆道系に関心のある方々に是非この本を読まれるようお勧めすると同時に、中山教授ならびに奥様ハンナ様の今後のますますの御健勝を祈り、上げて筆を置く。

● B5 頁312 図23 写真14
カラー写真8 表18 1996 定価
14,420円(税込) 円400

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)